

宜しく御願ひします

症例提示の流れ

～歳、～性で、～が～（期間）続くという主訴で来院し、
～を目的に入院しました
現病歴は～前にさかのぼります

患者背景です

次いで、病歴です（病歴は、〇〇から聴取しました）

主訴に関連する既往歴・背景を説明します

最後に鑑別に関連する病歴 ROS を説明します

現病歴は以上です

続いて、身体所見に移ります

身長・体重・BMI は、
入院時バイタルは、アピアランスは、意識は、
最後に鑑別に関連する身体所見 ROS を説明します
最後に鑑別に関連する所見を纏めます：陽性所見としては、陰性所見としては、

続いて、検査所見に移ります

プロブレムリストですが、

鑑別診断ですが、

プランですが、

診断的プラン
治療的プラン
教育的プラン
(システムを改善するプラン)



研修医用: 症例提示チェックリスト ①

よろしく、おねがいします		振り返り
主訴	患者が語る症状の中から、貴方が最も重要と判断して選択する症状のことで	「貴方にとって一番気に掛かることは何ですか?」と聞いてみる 主訴は、患者の言葉で表現する
一文サマリー	患者イメージを表現する、的確な一文を考える	Aさんは～歳、～性で、～が～(期間)続くという主訴で来院し、～を目的に入院しました 現病歴は～(期間)前にさかのぼります
患者背景です	患者さんは～との～暮らし、ADL(またはPS)は～です 職業は～で、飲酒歴は～、喫煙は～ 鑑別に関連する情報を選択して提示する	鑑別に関連する情報 既往歴 家族歴 漢方を含む、薬歴 アレルギー歴 サプリメント・健康食品 海外渡航歴 ペット飼育歴 居住歴
次いで、病歴です 現病歴は、〇〇〇から聴取しました	主訴のOPQRSTを特定して的確に表現できる	Onset 主訴発症のタイミングを、発症前の状況と比較して 起点は、受診日(または入院日) closed question で、発症日を特定 「普段通りに生活できたのは、いつまででしたか?」 「服や靴のサイズの変化に気づいたのは、いつ頃でしたか?」 Time Course 主訴の質・量の変化のグラフを、聞き手に理解させる Resion/Radition Quality 発症前と比較し、患者生活への影響度を具体的に述べる Paliative/Provocative closed question で、鑑別の決め手となる症状の有無を特定 Associated Symptoms 随伴所見としては～、～や～はありません
次に主訴に関連する既往歴、背景を説明します	主訴に関連する既往歴、背景	患者さんは半年に一度かかりつけの開業医で血液検査を受けていますが、3か月前の血液検査でCRP高値、Alb低値を指摘されて抗菌薬を投与されていました。 しかし、その後も血液検査以上が持続したために当院内科を受診し、.....
最後に、鑑別に関連するROSを説明します	Review of Systems	陽性症状としては体重減少、両下腿の浮腫があります。 体重は半年で6Kg減ったとのことです。 また、熱感の自覚はありませんでしたが、入院時に自覚無く体温が38度あったことからこれまでも発熱があった可能性があります。 食事は以前の半分程度にまで落ちており、硬いものを食べる際には顎が疲れやすいようです。 悪寒、戦慄、盗汗はなく、咳・痰の増加、喀血、血痰といった呼吸器症状、下痢・腹痛などの腹部症状はなく、排尿時痛・頻尿・残尿感といった膀胱刺激症状もありません また、膠原病を示唆する関節痛、光線過敏症、レイノー症状、口内炎もありません
現病歴は、以上です		

研修医用：症例提示チェックリスト ②

続いて、 身体所見に移ります			振り返り
身長・体重・BMI	身長・体重・BMIは、		
入院時バイタル	入院時バイタルは、～ アピアランスは、～ 意識は、～	体温 血圧 脈拍 呼吸数 酸素飽和度 アピアランス 意識	
次いで 鑑別に関連する ROSを説明します	鑑別に関連する 陽性所見を選択的に	頭頸部 胸部 腹部 背部 四肢と皮膚 必要に応じて、神経学的所見も	
最後に、 鑑別に関連する 所見をまとめます	陽性所見としては、～があり、 陰性所見としては、 ～はありませんでした		
続いて、 検査所見に移ります			
画像所見では、			
プロブレムリスト ですが、	3つ程度に、プロブレムを絞る	主訴 主訴に関連する所見	
鑑別診断ですが、	(確信がある場合) 診断としては〇〇を考えます	診断の根拠 重症度や分類	
	(診断に疑念がある場合) 第1に〇〇を考えます 但し、鑑別としては XXや△△を考えます	診断の根拠 重症度や分類	
プランですが、	診断的プランは、 治療的プランは、 教育的プランは、	患者・家族の心理学的・社会的問題を配慮 患者の期待に応えるプロセスの改善にも配慮	
症例提示は、以上です			